



## 大師信仰への転換

### — 鯖大師の場合 —

いしお かずひと  
石尾 和仁 (友の会会員)

かいふ かいよう かいふかいよう かいふかいよう  
海部郡海陽町の浅川に鯖瀬大師堂があります (図  
1)。現在は、弘法大師の伝説をもち、四国遍路の  
番外札所として多くの参拝者が訪れています。

その伝説というのは、八坂八浜を訪れた弘法大師  
が、行基手植えの松の下で野宿をしていたときに行  
基の夢を見ます。夢がさめると、そこに塩鯖を背負っ  
た馬子が通りかかったので、弘法大師がその塩鯖を  
所望したところ、馬子は罵って断ってしまいます。  
すると、坂にさしかかったところで馬が急に苦しみ  
だしました。あわてた馬子は、先ほどの僧が弘法大  
師であったと悟り、塩鯖を差し出して馬を治して欲  
しいと懇願しました。弘法大師が加持水を与えると  
馬は元気になり、塩鯖を海に放つと生き返って泳ぎ  
だしました。これに感服した馬子は、ここに庵を建  
てたというものです。これは、横山春陽の『阿波伝  
説集』(1931年)以来、多くの書物で紹介されて  
きていますが、古くは弘法大師ではなく、行基とし  
て語り継がれてきたものです。



図1. 鯖瀬大師堂 (徳島県海部郡海陽町浅川)

例えば、寛永15(1638)年、賢明によって書  
かれたとも言われている『空性法親王四国霊場御巡  
行記』に「八坂坂中鯖一箇、行基に呉れて駒ぞ腹痛  
と、詠ぜし茲は所なり」と記されていたり、貞享4  
(1687)年に真念が著した『四国遍礼道指南』にも  
行基伝承が書かれています。また、寛政12(1800)  
年に作られた『四国遍礼名所図会』にも「鯖瀬庵」  
の説明に「本尊行基菩薩。此所にて行基菩薩御修業  
とあります。

そして、19世紀初頭の文化年間につくられた『阿  
波国名所図会』にも、「行基菩薩古跡 もしほくむ  
道やはるけき八の坂 八の浜辺を通ふうら人」と詠  
われているのです(図2)。

さらに、明治12(1880)年の浅川村「境外庵室



図2. 阿波名所図絵

明細帳」という資料にも、「当庵ノ義八行基創立開基ニテ往古八海部郡鞆村弘誓寺ニ有之処、享和年中正福寺ニ改ム、其後文政十亥年再建ス」とあって、行基が創建に関わったという伝承が伝えられていました（『海南町史 上巻』）。すなわち、元来は行基にまつわる言い伝えが鯖瀬大師堂にはあったこととなります。

それでは、いつ頃に行基ではなく、弘法大師にまつわる伝説が創造され、語られ始めたのでしょうか。

昭和7（1932）年の「行基庵明細帳変更届」には、次のように記されています（『海南町史 上巻』）。

すなわち、「弘法大師四国霊場開創ノ砌、八坂八浜ノ中央タル堂地ニ野宿シ、行基菩薩ノ夢告ニ依リ当庵ヲ開キ給フト伝フ」とあって、弘法大師が野宿をしていたときに行基菩薩の夢を見たことが記されています。また、「当時通行中ノ馬方ヨリ鯖ヲ貰受ケ、馬方ヲ済度セシ因縁ニ由テ鯖大師ト称シ、所在地ヲ鯖瀬ト云フト、広ク人口ニ膾炙セリ」ともあって、弘法大師が馬子に鯖を望んだことにもふれられているのです。そして、「其ノ後、同郡鞆奥町弘誓寺持ノ所、享保二年同郡浅川村正福寺末ニ改ム、文政十年密成代、本堂ヲ再建、大正十四年現住道秀八従来西向ノ本堂ヲ南面ニ改築ス」とあって、大正14（1925）年の改築についても記されています。



図3. 三浦鼻の弥勒菩薩

このように、昭和7年には、冒頭で紹介した弘法大師伝説のストーリーができあがっているのです。したがって、これ以前に伝説の内容が変容していたこととなります。

私は、行基伝説から弘法大師伝説に移る契機は天保年間（1830～1843）にあったと考えています。なぜなら、天保5（1834）年が弘法大師千年忌にあたり、承和2（835）年に高野山奥院で入定した弘法大師が、やがて弥勒菩薩とともに下生するという信仰が、この頃に海部郡域にも広がっていたと考えられるからです。

例えば、浅川浦の三浦鼻には花崗岩製の弥勒石仏が立てられています（図3）、基壇の正面に「弘法大師千年忌供養」と刻まれています。さらには、鯖瀬大師堂に「文政十年秋八月二十一日 智積第一座道本謹書」の銘文をもつ「八坂大師」と大書きされた扁額があることから、このころから弘法大師との関わりを強調していくようになったと想像できます。

この文政10（1839）年という年は、冒頭で引用した明治12年の「境外庵室明細帳」などにも、本堂が再建されたと記されている年であるように、再建にあたって意図的に弘法大師信仰が生み出されたと考えられるのです。

おそらく、この頃から四国遍路を行う人々が増加したことを背景にして、そのような遍路の旅人を取り込んでいこうとする配慮があったのかも知れません。

鯖瀬大師堂の弘法大師伝承は、いわば、「創られた歴史」「創られた由緒」と言えるでしょう。

## 友の会行事報告

## チリモンを探そう！

◎日時 2010年6月20日(日) 13:30～15:30

◎場所 博物館実習室

◎講師 わたなかし 和田隆史氏 (徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所美波庁舎)・よしみかつゆき 吉見勝之氏 (吉見海産)

◎担当 さとよういち 佐藤陽一・やまだかずたか 山田量宗・なかおけんいち 中尾賢一 (博物館学芸員)、むかはらたかお 向原敬夫 (博物館普及課)

◎参加者 28名

## ◎概要

チリモン(チリメンモンスター)とは、ふだん私たちが食べているチリメンジャコ(チリメン)に混じっているおもしろい形をしたプランクトンのことです。チリメンとは、おもにカタクチイワシちぎよの稚魚のことですが、これ以外にもタツノオトシゴようぎよの幼魚やアジの仲間の稚魚、カニやエビようせいの幼生、イカの子供などいろいろ入っています。今回は、みんなでチリモン探しにチャレンジしました。

チリメンは、小松島市わだしま近海で漁獲されたものを講師の吉見さんに提供していただきました。スーパーなどで売られているチリメンと違って、チリモンがたくさん入っています。実は、チリモンのたくさん混ざったチリメンは、商品としては劣等品で、店頭と並ぶことはありません。今回使用したチリメンは、チリメン加工場でいったん選別されたチリモンをわざと混ぜたものなのです。それだけに、



タツノオトシゴ(上)とカニのゾエア幼生(下)

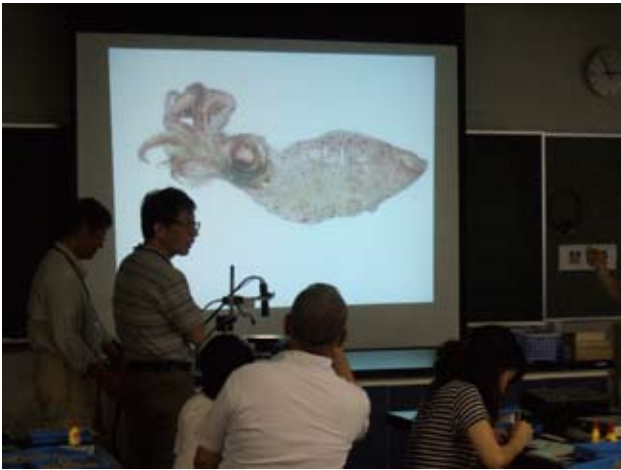
どんなチリモンに出会えるか、とても楽しみでした。

参加者の皆さん一人一人にチリメンの入った袋やバット、ピンセット、同定シート、チリモンカード用の台紙などが配られ、さっそくソーティングをしました。形や大きさ、色や模様などの特徴に基づいて分けていきました。多かったのは、イカの幼生とアジの仲間の稚魚ですが、よく見ると様々な動物プランクトンが含まれていました。中には、タツノオ



熱心にチリモンを探す参加者





見つけたチリモンをプロジェクターで映して解説

トシゴの子供を見つけた参加者もいました。各テーブルに双眼実体顕微鏡そうがんじつたいけんびきょうを置いたので、拡大して観察もしました。台紙に海の中の様子などを色鉛筆で描いて、それに自分が見つけたチリモンをボンドで貼ると、チリモンカードのできあがりです。

最後に、講師の和田さんに、今日見つけたチリモンをプロジェクターに映写して解説していただきました。また、和田さんと吉見さんには、チリメン漁業やチリメン製造の様子なども説明していただき、ふだん知ることのないチリメンについての知識を深めることができ、充実した時を過ごすことができました。季節や年により、入っているチリモンは変わるので、ご要望が多ければ、またこの行事をやりたいと思います。また違ったチリモンに出会えることでしょう。

(佐藤陽一：動物担当学芸員)



見つけたチリモンをカードに並べる



できあがったチリモンカード

### Voic<sup>e</sup> 参加者の声

やまもと たくみ  
● 山本 拓実

ぼくのお気に入りには「シャコ」。お父さんに見せたらすごいと言ってくれた。楽しかった。ほかにも「ゾエア」、「ノレソレ」などを見つけた。あんなのが家で食べているジャコに入っているかもしれないと思うとびっくりする。また、やりたいなあ～。

やまもと  
● 山本 あかり

「ゾエア」と「メガロパ」を見つけるのは、とてもむずかしかったです。学校に持って行ったら、みんなびっくりしていました。みんながいつも食べているジャコ（チリメンジャコ）が、カタクチイワシという名前だと知って、クラスみんなが「そうなんだ」と言っていました。タツノオトシゴは見つからなかったけれど、楽しかったです。また、やりたいな。

### 友の会行事報告

## 地引き網を引こう

◎日時 7月17日(土) 10:00～13:00

◎場所 阿南市中林町 北の脇海水浴場

◎担当 おおすぎ ようこ いせ  
大杉洋子・伊勢ひとみ(友の会役員)  
さとう よういち むかはら たかお  
佐藤陽一(博物館学芸員)、向原敬夫(博物館普及課)

◎参加者 41名

◎概要

梅雨明け間近の夏空の下、5年ぶり4回目となる

じびき あみ  
地引き網体験を実施しました。浜の少し沖で2艘の  
漁船が網を仕掛ける様子をワクワクしながら見守り  
ました。やがて、漁船が浜に着き、2本のロープを  
2組に分かれて引き始めました。しばらくすると、  
袋網が姿を見せ始め、それが波打ち際まで来たとき、  
中でとび跳ねる魚を目にした参加者から喚声が上が  
りました。

タイ、アナゴ、アジ、イダコなど、かなりたく  
さんの魚介類が入っていました。佐藤学芸員による  
と、本来なら昼間はそんなに捕れないそうで、我々  
の食欲を満たすために増量されたようです。捕れた  
魚はさっそく漁協の方が料理してくれました。子ど  
もたちにとっては、魚を捌く様子が珍しいようで、  
刺身に、また網焼きにとされていく過程を興味津々  
で見つめていました。

潮風に吹かれながら、捕れたての魚を味わい、贅  
沢な気分で行事を終えました。捕れた魚をじっくり  
観察するゆとりがなかったのは残念ですが、夏を大  
いに満喫できた一日だったと思います。

(向原敬夫：友の会事務局)



たくさんの魚が捕れ（上）、調理して食べた（下）



みんなで一生懸命網を引く（上）と魚の姿が見えた（下）

### Voic<sup>e</sup> 参加者の声

#### ● 松家 茉莉子

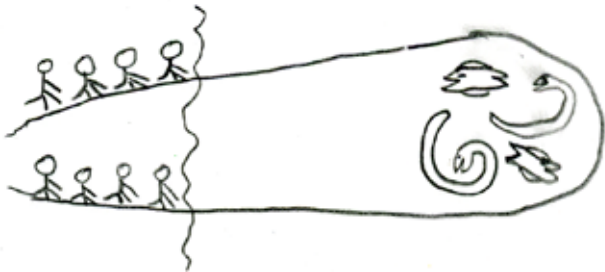
地引き網楽しかったし、タイのさし身はとてもお  
いしかったです。おにぎりも全部食べられました。  
友だちができて、海に入って楽しかったです。



なかむら たいち

● 中村 太一

地引き網を引くのが楽しかったです。いろいろな魚がとれたので、うれしかったです。おばちゃんが魚をさばいているのが、豪快ごうかいだったのでびっくりしました。タイのさし身は、とてもおいしかったです。また、来年も行きたいです。ありがとうございました。



友の会行事報告

文化の森開園 20 周年記念

文化の森サマーフェスティバル

◎日時 8月7日(土) 9:30～20:00

◎場所 文化の森総合公園シンボル広場

◎協力していただいた友の会のみなさん

おおすぎようこ とりい たかし ゆきなりまさあき わ だけんじ た だ  
大杉洋子・鳥居 喬・行成正昭・和田賢次・多田  
せいすけ さわしよじろう まつかきよこ いせ なんぶ  
精介・澤 祥二朗・松家京子・伊勢ひとみ・南部  
ようこ いしおかずひと たかと  
洋子・石尾和仁・大杉いずみ・大杉天斗・大杉さくら・  
おのであらみ みわひろあき なかむら ゆ か たいち まつうら  
小野寺晶美・三輪弘昭・中村由香・中村太一・松浦  
ともよ あいら  
党世・松浦愛天

◎参加者 1527 名

◎概要

今年文化の森開園 20 周年にあたり、さまざまな記念行事が催されます。その一つが文化の森サマーフェスティバルです。友の会では、「水鉄砲みずでっぽう」、「型抜きかたぬ」、「スーパーボールすくい」を出店しました。



受付の様子



上から水鉄砲、型抜き、スーパーボールすくいの様子

今年の夏は本当に暑かったですが、当日もその猛暑もうしょの中たくさんの子供たちが参加してくれました。

一昔前の縁日では、定番といってもよかった「型抜き」。子どもたち以上に保護者の方がエキサイト。抜き方の秘伝を伝授している保護者もいて、親子で楽しんでいただけたようです。「スーパーボールすくい」では、1回で20個以上もすくう達人が何人もいて驚かされました。また、この日記念品として作った缶バッジがとても人気でした。友の会の行事として「缶バッジづくり」をしても、面白いかもかもしれません。

最後に、たいへん暑い中で協力いただきました皆様にお礼申し上げます。(向原敬夫：友の会事務局)

便利なグッズの紹介

## デジタルマイクロスコープ

みなさんは、「ヘアチェック」や「お肌の<sup>ほだ</sup>チェック」と称して、頭や皮膚に円筒形のものをくっつけてその表面の拡大をモニターに映すという光景を見たことがありますか。

それはデジタル<sup>マイクロスコープ</sup>顕微鏡と呼ばれるもので、博物館でも研究用に使っています。しかし、研究用として売られている製品は拡大率は大きく画像が鮮明に見えるかわりに、価格が高かったり、大きくて持ち運びに苦労するものでした。最近ではUSB 接続の簡易なデジタルマイクロスコープが発売され、数千円から数万円と個人でも比較的気軽に購入できるようになりました。今回は3種類のデジタルマイクロスコープについて紹介します。

まずは、「DinoLite Pro 500x」（販売元：サンコー）です（図1）。基本的な構造と使い方は他の製品と共通していますのでこれを例に説明します。付け根にはUSBの端子があり、ここをパソコンのプリンタなどで使用するUSBジャックにさしこみます。先端は円筒状となっていて、その先端の周辺にライト（LED）がついていて、中心がレンズになっています。円筒状の胴体にはピントを調整するリングがついています。ライトは自動的にホワイトバランスを調整するようになっています。このように構造が非常にシンプルで、操作するのはピントの調整リングしかありません。使用方法も簡単で、パソコンに



図1. DinoLite Pro 500x



図2. DinoLite Pro 500x の使用の様子

つなげて専用ソフトを起動すればライトが点灯します。観察対象に近づけて、本体のピント調整リングで、パソコンのモニターを見ながらピントを合わせれば観察できます。

「DinoLite Pro 500x」は価格は高め（30,000円前後）ですが、500倍の高倍率で観察できます。重さは95gととっても軽くなっていて、持ち運びにも便利です。筆者はその高倍率を利用してタンポポ調査でその花粉を見て種類を判別するのに使用しました（図2）。セイヨウタンポポでは大きさがばらつく花粉が、カンサイタンポポではほぼ均一の大きさとなりますが、これを使えば十分判別できました（図3）。おかげで6,000点にもおよぶ大量のサンプルの花粉を1個ずつ顕微鏡で見るという手間が省け、時間も短縮することができました。撮影できる画像は1280×960ドットで、長さも計測できます。

次に「<sup>ひび</sup>秀マイクロン3 USB デジタル顕微鏡」（販売元：テック（株））ですが、10倍から230倍の倍率で、撮影できる画像は1,600×1200ドットと高解像度で、長さも計測できます。気になる価格は9,000円前後と前製品に比べて安くなっています。

最後は、「DinoLite Digital Microscope」（販売元：サンコー）で最初に紹介したものと同じシリーズです。価格は7,000円と少し安いのですが、画像の解像度は640×480ドットで、倍率は10～230倍となっています。ライト（LED）も付いていて、夏休みに開催される「標本の名前を調べる会」などで植物の葉の表面を見せながら、毛が多いなどの特徴を説明するには十分な能力を持っています。

これら3製品を比較すると、500倍の高倍率で

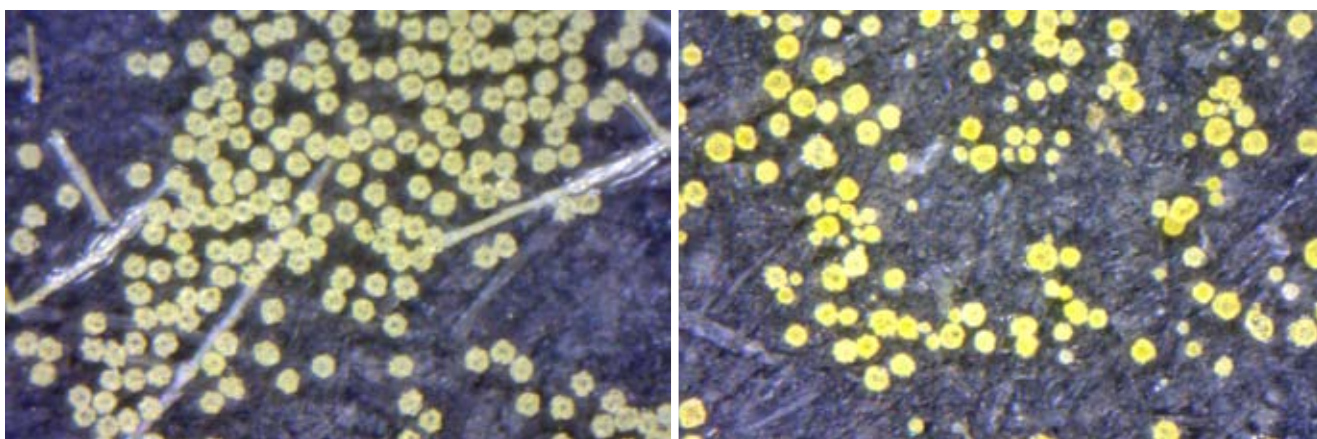


図3. DinoLite Pro 500x で撮影したカンサイタンポポ (左)、セイヨウタンポポ (右) の花粉

表1. 各製品の比較

	価格	倍率	照明 (LED)	解像度 (ドット)	重さ (g)	長さの計測	対応OS	
							MacOSX	Windows
DinoLite Pro 500x	30,000円前後	500倍	8個	1280×960	95	○	10.4以降	XP/Vista/7
秀マイクロン3USBデジタル顕微鏡	9,000円前後	10～230倍	8個	1600×1200	63	○	10.4以降	XP/Vista/7
DinoLite Digital Microscope	7,000円前後	10～230倍	4個	640×480	95	×	10.4以降	XP/Vista

見たい場合は「DinoLite Pro 500x」、200倍くらいまで、細かい画像が見たければ「秀マイクロン3USBデジタル顕微鏡」、とにかく安く200倍くらいに拡大したい場合は「DinoLite Digital Microscope」と用途に応じて使い分けるのがよさそうです。

デジタルマイクロスコープはいろいろなメーカーから沢山の製品が出ていますが、選ぶ時の注意点として、どんな照明用のライトが付いているか確認してください。製品によっては紫外線や赤外線などの特殊な光を出すものがあり、観察する対象によって使い分けた方が良いものもあります。また、観察する対象にあった倍率を選ぶ必要もあります。さらに、今回紹介した製品はいずれもWindowsとMacOSXで動作しますが、OSやメモリによっては動作しないものもありますので、買う前に自分のパソコンで動く製品か確認した方が良いでしょう。

どの製品もライト付きで、持ち運びも簡単にできるので気軽に拡大して観察することができます。パソコンがなくてもテレビに接続して拡大した画像を見ることのできる製品もあります。価格も安いものも多いのでぜひ試して、ミクロの世界を覗いてみてください。

おがわ まこと  
(小川 誠：植物担当学芸員)



図4. 秀マイクロン3USBデジタル顕微鏡で撮影したアイの花 (上) と1万円札のマイクロ文字 (下)

### アワーミュージアム 第44号

2010年10月30日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp